

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：21501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K17406

研究課題名（和文）小規模病院における退院支援の質向上のための教育プログラム開発

研究課題名（英文）Development of educational programs to improve the quality of discharge support in small hospitals

研究代表者

齋藤 愛依 (Saito, Ai)

山形県立保健医療大学・保健医療学部・助教

研究者番号：80779679

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：東北6県の地域包括ケア病床を有する小規模病院149施設に研究協力を依頼し、55施設から同意を得られた。55施設に対し、207件の質問紙調査を依頼し、80件（回収率38.6%）の回答が得られた。そのうち回答に不備のあるものを除外し、73件（有効回答率35.3%）を分析対象とした。小規模病院における退院支援では退院困難事例も多く、退院支援の難易度を上げている。クリニカルラダーのレベルごとに看護師に求められる退院支援に関する知識と技術の内容を明らかにすることができた。それぞれのレベルごとに達成すべき目標を明確化し、ラダーレベルに沿った研修会の実施の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域包括ケア病床を有する小規模病院の退院支援の人材育成システムを検討することで、病棟で働く様々な看護師に適した教育の場を設けることが可能となり、退院支援の質の向上につながる。クリニカルラダーに退院支援に関する学習目標を設定することで、多くの小規模病院で退院支援に関する教育の機会を提供することが可能となる。

研究成果の概要（英文）：We requested 149 small hospitals (less than 200 beds) with community-based integrated care beds in the Tohoku region to cooperate in our study. We mailed 207 questionnaires to the 55 hospitals that agreed to participate. 80 (38.6%) responses were received. Of these, 73 (35.3%) were included in the analysis. There are many difficult cases in discharge support provided in small hospitals. We were able to clarify the content of knowledge and skills related to discharge support required of nurses at each level of the clinical ladder. It was suggested that there is a need to clarify the goals to be achieved at each level and to implement training in accordance with the ladder levels.

研究分野：基礎看護学

キーワード：退院支援 地域包括ケア病床 小規模病院 人材育成 クリニカルラダー

1. 研究開始当初の背景

平成26年度の診療報酬改定を受け、在院日数の短縮化や医療機関の機能分化が進み、退院支援の必要性が高まっている。大規模病院から小規模病院への転院件数が増加し、過疎地では小規模病院が地域包括ケアシステムの中核として位置づけられ、退院支援の質と量が求められている。しかし、小規模病院を対象とした退院支援に関する研究は少なく、看護師の退院支援の能力や組織体制などの現状や課題が不明確である。さらに、小規模病院は慢性的な看護師不足等の問題があり、院外の研修への参加や院内教育の体制が整っていない状況がある。

近年、国内でも退院支援に関する関心が高まっており、多くの研究が行われている。退院支援に関する研究の多くは、退院調整部門の看護師の教育や取り組みに関するもの、患者・家族を対象とした退院支援の評価、病棟看護師の退院支援に関する意識調査、スクリーニングシート開発等が多く、特に入院早期からの退院を見据えた介入の必要性が示唆されている¹⁾。退院支援を行うことに重点を置いた現状の分析に関する研究が主流である。一方、病棟看護師の退院支援実践に関する研究は数が少ない現状にある。

退院支援に対する人材育成についての先行研究を見ると、中堅看護師など対象を限定したものや、社会資源等退院支援に関する研修会の効果の検証等が多くみられる。病棟で退院支援を行う看護師は、経験年数や勤務してきた診療科など個人差が大きい。また、小規模病院では中途採用者も多く、ほかの医療機関で経験を積んできた看護師も在籍している。山本ら²⁾は、「退院支援の中心である病棟看護師の退院支援の実践能力が向上することが退院支援の成功につながる」と述べており、病棟看護師の退院支援についての教育の必要性をあげている。したがって、小規模病院においてさまざまなキャリアの看護師が退院支援を行う上で、それぞれの段階にあった退院支援に関する人材育成を行っていく必要があると考えた。なお、本研究における小規模病院とは、病床数が200床未満の病院を指している。

<参考文献>

1) 永田智子, 村嶋幸代: 高齢者の退院支援. 日本老年医学会雑誌 39 (6), 2002; 879-584

2) 山本詩帆, 森下安子: 退院調整看護師による病棟看護師の実践能力向上へのかかわり—退院支援における状況の認識・働きかけに焦点を当てて—. 高知女子大学看護学会誌, 41 (2), 60-69, 2016.

2. 研究の目的

地域包括ケア病床を有する小規模病院における退院支援に関する人材育成システムを検討することで、小規模病院における退院支援の質の向上に寄与する。

3. 研究の方法

(1) 研究方法

質問紙による無記名の自記式質問紙調査を行う。

(2) 対象者

厚生労働省の届出受理医療機関名簿を参照し抽出した、東北6県の地域包括ケア病床を有する小規模病院(149施設)の病棟看護師長および役職がついている看護師

(3) データ収集方法

①対象施設となる地域包括ケア病床を有する小規模病院の病院長あてに、研究の趣旨と倫理的配慮を記載した依頼状を送付し、研究への協力を依頼する。

②看護部長宛ての依頼状をご覧いただき、研究への協力が得られた場合には、看護部長から研究対象者の人数を調査用紙にて回答いただき、同封の返信用封筒に封入して投函してもらう。

③同意が得られた施設の看護部長宛てに依頼状とともに当該病棟の看護師長および役職がついている看護師を対象とした調査用紙一式を送付し、研究対象者に配布を依頼する。

④対象者からは直接研究責任者宛てに無記名の調査用紙を郵送してもらう。

(4) データ収集内容

①病棟での退院支援・退院調整について

主な開始時期、退院支援を必要とする患者の判断者、退院支援と担う職種

②病棟看護師に求められる退院支援の能力

日本看護協会のクリニカルラダー¹⁾を参考に、レベルⅠ～Ⅴの段階でどのような知識や技術が必要かを調査する。退院支援に必要な実践内容としては、坂井²⁾が作成した退院支援実践自己評価尺度と藤澤ら^{3) 4)}の退院支援における困難感や人材育成プログラムを参考にした。

〈参考文献〉

- 1) 日本看護協会：看護師のクリニカルラダー。
<https://www.nurse.or.jp/nursing/education/jissen/>（最終閲覧日：2023年6月7日）
- 2) 宇都宮宏子，坂井志麻：退院支援ガイドブック 「これまでの暮らし」「そしてこれから」をみすえてわかる 第3版.学研メディカル秀潤社，東京，2016.
- 3) 藤澤まこと：ナースが行う入退院支援 患者・家族が“その人らしく生きる”を支えるために 第1版.メヂカルフレンド社，東京，2020.
- 4) 藤澤まこと，黒江ゆり子，杉野緑，他：利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援.令和元年度岐阜県立看護大学看護実践研究指導事業報告書，7-21，2019.

4. 研究成果

東北6県の地域包括ケア病床を有する小規模病院149施設に研究協力を依頼し、55施設から同意を得られた。55施設に対し、207件の質問紙調査を依頼し、80件(38.6%)の回答が得られた。そのうち回答に不備のあるものを除外し、73件(有効回答率35.3%)を分析対象とした。回答者の個人属性は以下のとおりである。病棟看護師長27名(37.0%)副看護師長15名(20.5%)主任25名(34.2%)その他・無回答5名(6.8%)であった。退院支援に関する独自のマニュアルを作成していると回答したのは39名(53.4%)、スクリーニングシートを活用していると回答したのは52名(71.2%)だった。クリニカルラダーに退院支援に関する内容を含んでいると回答したのは23名(31.5%)含んでいない30名(41.1%)検討中である11名(15.1%)であった。

退院支援に関する知識や技術について、クリニカルラダーのどのレベルでの習得が望ましいと考えているかを調査した結果、患者の入院前の生活状況やADL、社会背景などに関する情報収集に関する技術は、ラダーレベルⅠの段階での習得が望まれていた。ラダーレベルⅡでは、これらの情報を踏まえたうえで、患者の疾患や予後、家族に関する情報収集や今後の意向の把握といった技術が求められていた。ラダーレベルⅢの看護師に求められている内容は多く、多岐にわたっていた。退院支援に必要な社会資源に関する知識を持ち、必要に応じて家族や他職種との間を取り持つような関わりや、多職種との連携に関する技術の習得が求められている。ラダーレベルⅣの看護師には、病院機能や医療費などに関連した内容や患者・家族・医療者での今後の方向性にズレが生じていないかなどを調整する役割を求めていることが明らかになった。

すでに院内で使用しているクリニカルラダーに退院支援に関連する内容を含んでいる病院であっても、院内で退院支援に関する研修会等を実施していない病院も多かった。院内での人材育成においても、慢性的な人手不足や通常業務に追われて院内での研修会の実施や院外での研修会への参加も困難な状況がある。また、大規模病院と同様に、若い(ラダーレベルⅠ・Ⅱ)看護師が在宅での生活をイメージすることが困難なケースが多く、退院後の生活を見越した支援ができていないという課題も抱えていた。さらに、退院支援はベテラン看護師が行うことであると認識している看護師もあり、MSWや退院調整部門の看護師に任せきりになってしまうケースも多い。生活の視点を知るために、退院前後での自宅訪問等も実施することが効果的であると言われているが、コロナ禍で訪問ができなくなったことや人員不足によって業務内での訪問が困難な状況である。

退院支援の質向上のためには、患者や家族と関わる機会の多い病棟看護師の知識や技術の向上が必要である。そのために、本研究で明らかになったクリニカルラダー別の目標を明確にし、退院支援にかかわる病棟看護師がしっかりと意識をし、それを達成できるように一緒に退院支援を行う多職種も含めて研修会等を実施するなどの必要性が明らかとなった。

ラダーレベル	退院支援に関する知識や技術
レベルⅠ	患者の入院前の生活状況(ADL、認知レベル、環境等)について情報収集する
	患者のADL状況、認知・理解能力について情報収集する
	患者の社会背景(生活史、職業、信条、趣味等)について情報収集する
レベルⅡ	患者の疾患、進行度、予後について情報収集する
	家族構成と関係性、キーパーソン(インフォーマル含む)について情報収集する 患者・家族が退院に向けてどのような思いを抱き、今後どのように過ごしたいのか意向を把握する
レベルⅢ	患者・家族の理解度に合わせて医師からの病状説明の場を設定する
	患者のADLから、今後の生活で起こりうる課題について検討する
	患者・家族の思いを医師と共有して、今後の方向性を話し合う
	病状に伴い、今後起こりうる生活上の変化について患者・家族に説明する
	患者の在住する地方自治体には在宅療養を支えるためにどのようなサービスがあるのか把握する
	介護保険の対象者、申請方法、サービス内容について患者・家族へ説明する
	往診や訪問看護の対象者と利用方法について必要時に患者・家族へ説明する
	患者・家族へ病棟スタッフが統一した内容で医療処置を指導する
	点滴管理や内服管理方法について医師や薬剤師と連携して患者・家族が対応可能となるように簡素化する
	退院後の環境を想定したADL動作についてリハビリスタッフと連携して患者・家族に指導する
	栄養士やNSTに在宅での食事方法や栄養について相談する
	退院調整部門と協働して患者の生活に合わせた医療処置の方法をアレンジする
	在宅生活で起こりうる異常や緊急時の対応を患者・家族が理解できているか確認する
退院前カンファレンスで在宅生活の課題についてケアマネージャーや往診医、訪問看護師、ヘルパー、保健師へ申し送る	
在宅療養の準備をする(医療材料購入について情報提供、関係医療機関との調整等)	
レベルⅣ	現在の病院機能と役割について患者・家族へ説明する
	患者・家族・医療者間で今後の方向性の意思・意向にズレが生じていないか確認する
	生活保護制度による医療費の負担割合について必要時に患者・家族へ説明する

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 後藤順子, 齋藤愛依, 佐藤志保
2. 発表標題 地域包括ケア病棟に勤務する看護師の思いと関り
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------